

巻頭言

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」から1年以上の年月が経過しました。改めまして、被災されました市民の皆様から心から御見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方に謹んで哀悼の意を捧げます。

また、この度の震災に際し、県内外の企業をはじめとして、自治体、個人の皆様から支援物資や見舞金・義援金など、温かい御支援をいただきました。さらには、市民の皆様を中心としたボランティアの方々の御協力など、物心両面から励ましをいただきましたことに対しまして、心から感謝と御礼を申し上げます。

東日本大震災は、マグニチュード9.0と我が国観測史上例を見ない大地震や大津波による自然災害と、これに起因する原子力災害が加わった大規模複合災害であり、その被害は、東日本地域に甚大な影響を与えました。本市も例外ではなく、地震直後に発生した大津波により、鹿島港とその周辺地域や大野区域の沿岸部では大きな被害を受けました。特に長栖・泉川地区では、航路で波高を増した津波が岸壁を超え、コンテナや車両等を巻き込みながら集落に押し寄せ、1名の方が亡くなりました。さらに、激しい揺れが継続したことで地滑りや液状化現象を誘発し、3,100棟を超える建物が全・半壊したほか、道路・鉄道・上下水道・港湾等に甚大な被害をもたらしました。

このように、市では今回の大震災によりこれまでにない大きな被害を受けましたが、そのような状況の中でも、自らが被災者であるにも関わらず避難所での炊き出しや瓦礫の撤去等の清掃活動に協力を惜しまない方、さらには消防団や高校生などが被災現場で支援活動する姿などが見られ、むしろこの災害で、市民間の“絆”が深く結ばれ、市民力はさらに高まったと感じています。

震災からの本格的な復旧・復興は、まだこれからの状況ではありますが、日本国民の誰もが忘れることのできない日となった「平成23年3月11日」の出来事を教訓に、しっかりとした復興を成し遂げなければならないと決意を新たにしています。

そのためにも、平成24年度を鹿嶋市の『復興元年』と位置付け、震災の復旧・復興を最優先とした取り組みを進めてまいりますので、市民の皆様のおなご一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

平成24年6月



鹿嶋市長 内田 俊郎

はじめに ～本市における被災概況～

この地震は、2011年3月11日14時46分、牡鹿半島の東南東約130km付近（三陸沖）の深さ約24kmを震源として発生しました。

太平洋プレートと北アメリカプレートの境界域（日本海溝付近）における海溝型地震で、震源域は東北地方の太平洋沖の幅約200km・長さ約500kmの広範囲に至りました。

マグニチュードは9.0で、国内では史上最大級の地震であり、本市においても震度6弱を記録し、まさに未曾有の大地震となりました。

この30分後の15時15分にも、本震に近い震度5強（マグニチュード7.4）の地震が発生し、大きな被害となる引き金となってしまいました。

最悪にも、この地震により大規模な津波が発生し、本市でもこれまでに類を見ない津波が次々に家屋を飲み込み、避難することが精一杯で、対応にも右往左往するばかりで、しばらくの間は手が出せない時間も続きました。

このような中、残念なことに、1名の方が尊い命を失うこととなり、災害の恐ろしい現状を目の当たりにしました。

今回の地震による被害箇所の傾向として、低地部においては、液状化現象により、建物や道路排水施設の被害が多く見られました。更に、泉川・長栖地区においては、浚渫中の北公共ふ頭より2mを超える津波の影響を受け、家屋や田畑に海水が流入して作付けが不能に陥る被害を受けました。

台地部においては、2回の大きな地震と長い震動により、屋根瓦の崩落や地割れが生じてブロック・排水施設等が損壊する被害が散在しました。

本報告書では、本市における被災状況について、昨年10月28日現在の状況を集約し、掲載しています。